

令和3年度 学校経営計画

富山県立大門高等学校

1 学校教育目標

「創意・敢行」の校訓のもとに、次の3点を基本目標として掲げ、時代をたくましく生き抜く人材を育てる。

- 高い知性と創造的な能力を養う。
- 自他敬愛の精神と主体的な実践力を培う。
- 豊かな情操とたくましい心身を育てる。

2 学校の特徴

- (1) 本校は、高度情報化社会をリードする人材の育成をねらいとした「情報コース」を設置する普通科単独校である。生徒のほとんどは国公立大学をはじめとした高等教育機関への進学を目指している。

学習面では、習熟度別学習や班別学習などを実施し、日頃の授業の充実と学習成果を向上させる取組や、学習意欲の向上と学習習慣の確立に向けた全校的な指導を継続的に行ってきた。

進路面では、個人面接を中心に、きめ細かな進路指導を実践している。また、平成30年度からe-ポートフォリオに対応したサービス「Classi」を導入し、学習や活動の振り返りを記録している。主体的な学習活動や進路実現のための有意義な振り返りによる成長を目指している。

生活面では、生徒主導による全校集会（全校大門タイム）を金曜日の朝に数回設け、生徒の主体性を生かした実践力・リーダーシップの向上を推進している。

- (2) 本校卒業生の特徴として、理工系大学への進学者が多く、そのことを意識した進路講演会、進路研修旅行や富山県立大学・金沢工業大学での実習等、高大連携事業などを企画し進路意識の向上を図っている。
- (3) 「情報コース」が設置されている特性を生かし、情報教育を核としながら、ICT機器を活用した授業を推進している。特に昨年度からオンライン授業を実施するなど、新たな学びの確保に向けた取組を試みている。また、コース以外の生徒でも、情報メディアを活用した課題研究に取り組めるよう、教育課程を工夫している。
- (4) 環境教育にも重きをおいており、平成9年から「高校生国際環境サミット」（現在の「CEI環境国際会議」）に参加し、平成13年には本校が「高校生国際環境サミット」のホスト校の役割を果たした。平成29年にはCEI2017環境国際会議（アメリカ合衆国オレゴン州セラム市開催）に、令和元年度にはCEI2019環境国際会議（トルコ共和国イスタンブール市開催）に参加し、これまでで通算9回目の参加となった。また、平成25年度に大韓民国、平成28年度にロシアで開催された「北東アジア地域環境体験プログラム」にも参加し、英語でのプレゼンテーションや世界各国の高校生との環境問題に関する意見交換など、積極的な交流に取り組んできた。令和2年にはCEI環境国際会議への参加や国際環境委員会の活動の成果が認められ「地域環境保全功労者表彰（環境大臣表彰）」を受賞している。

3 学校の現状と課題

本校生徒の意識と生活の実態を見ると、優しく素直な生徒が多く落ち着きがあるが、反面、将来の目標を実現するために積極的に立ち向かっていこうとする意欲やたくましさの乏しい面がある。また、一部には基本的な生活習慣の確立を課題とする生徒も見受けられる。生徒数の減少に伴う学級減により各学年3クラスの小規模校となった現状を踏まえ、学習面や部活動においてきめ細かく指導できるような体制の整備を図っていきたい。また、本校が育てたい生徒像（大門高等学校グランドデザイン）をもとに、学校生活全般にわたって主体的・協働的に活動できる生徒の育成に努める。

学校課題として「自ら高い目標を持ち、意欲的に学習し、主体的に行動できる生徒をどのように育成するか」を掲げ、以下の3つの目標を達成できるよう取組を実行する。

- ① 学習意欲の喚起等を図りながら学習の習慣付けを行い、確かな学力を育成し、生徒が自らの進路を切り拓き夢の実現を目指すようにする。
- ② 学習活動や生徒会活動、部活動等、学校生活全体を通して礼儀やマナーなどの社会性を身につけさせ、責任感を持って最後までやり遂げることのできる生徒を育成する。
- ③ 情報活用能力やボランティア精神を磨きながら、環境の保全や国際理解、地域社会での活動などを通して社会に貢献できる力を養う。